

2011年度

科目名	社会心理学実験実習				
担当教員	井上 徹				
配当	人社2		コード	24055	
開期	後期	講時	火曜日4限	単位数	1
授業テーマ	人の影響過程を心理学実験を通して考える。				
目的と概要	社会心理学に関係するさまざまな実験を通して、実験の方法、実験の進め方、結果の処理及び結果の記述の仕方を学習します。人が周囲の人から受ける影響過程を実験を通して考えることがこの授業の目的です。受講者は互いに実験者および被験者になります。また一般の学生にも被験者になってもらい実験を行います。				
成績評価法	各課題についてのレポート(70%)＋ 実験に取り組む姿勢、理解への意欲度、仲間への貢献度(30%)				
テキスト	心理学実験指導研究会編 1985『実験とテスト＝心理学の基礎(実習編)』 培風館				
参考書					
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	受講の条件として、1回生配当の「統計学AおよびB」また「心理学研究法」を履修済みであること。 もしくはこれらの科目を同時に受講していること。 事前に次の予告をするので、いろいろな文献で当該の事項について調べておくこと。				
講義計画					
1. 4－5名をひとつの班とします。班として各実験課題に取り組み、レポートを作成し、結果を発表します。					
2. 1つの実験課題は、次のようなサイクルで行う。 1週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など 2週目 実験経過の報告、集計・分析方法の指導 3週目 レポートへのまとめ方の指導 4週目 実験結果の発表とレポート提出					
3. 各実験課題は、次の通りです。 (1) 同調行動（ビー玉の数判断） 曖昧なものを判断するとき、人は周囲の人の情報を参考にしようとする。そうした同調行動の起源を、一人だけで判断する時と集団で判断する時を比較しながら考えます。					
(2) デマ（伝言ゲーム） 人から人へ伝わる情報は、伝える人の解釈によって変化することがあります。なにがそうした「歪み」を生じさせているかを実験を通して考えます。					
(3) 囚人のジレンマゲーム 個人の欲求と、その人が所属する集団の欲求が合致しないことがあります。そのような時、人はどちらを優先するか。どのような形で折り合いを付けていくのかを考えます。					
(4) 対人魅力の類似説 B y r n e（1970）のStandard Stranger Technic を用いて、対人魅力の類似説を実験的に確かめます。					